

1480 (文明12)	山口へ 八幡宮法楽何路百韻 (月を風張行 独吟百韻 (見るままに	(周防神光寺の旅館 何人百韻 (月にみつ 博多百韻 (秋ふけぬ	寺井賢仲連歌会 大内政弘館連歌会 (竹内忠国亭 太宰府天満宮宿坊 連歌会 (博多竜宮寺 *発句のみが残 る(連歌会?)	連歌初心抄 (奥書) 宗祇秘中抄 (偽書か)	富松三郎宿所 伊勢物語講 釈	
1481 (文明13)		何船百韻 (訪ふ人に 薄何百韻 (山吹を	(周防 (備中笠岡の友 竹亭 浦上則宗連歌会 寺井賢仲連歌会	宗祇発句判詞 『(初編)老葉』	相良小次郎に贈る 肖柏に「古今集」連続講義 ('古聞) 肖柏に 古今伝授	
1482 (文明14)		何人百韻 (消えねよし 両吟何路百韻 (駕は 薄何百韻 (咲くを見よ 何人百韻 (契りあれや 百韻連歌 (大原三吟 前句付四十番張行か	(池田正胤亭 (撰津有馬 (一 (足利義政主催連 歌会 道興長谷坊 (大原十如院	雪の烟 (竹林抄注釈書) 東常縁「拾遺愚草」の歌 58首の別紙口伝を受 常縁へ書状	宗伊編「連歌嫌様事」関与 三条西実隆「古今集」書写 肖柏に古今伝授終了	
1483 (文明15)	越後下向 (二)	何人百韻 (手折るなど	(森盛家亭 吉田兼俱 神道切紙伝授	手爾波大概之抄 成る		
1484 (文明16)			足利義尚連歌会 (小河西御所)	自讀歌注 定稿本	住吉か 「古今集」講釈	
1485 (文明17)	和泉国堺へ 帰京	何路百韻 (摘み残す 何人百韻 (秋風も	(波々伯部盛郷亭 (仏陀寺会	二楽軒亭 春日社法楽百 首続歌会 帯木別注(雨夜談抄、 帯木巻抄出)成る 『(再編)老葉』清書本 実隆より受く	三条西亭「源氏物語」講釈 (堀)「古今集」講釈 石井宗友「鉛訓和歌集開書」 (古今集宗祇略抄後に編集 三条西亭 肖柏の源氏物語 講釈を傍聴 三条西亭 伊勢物語 講釈 徳大寺実淳亭源氏物語講釈 三条西亭 源氏物語 講釈 三条西亭 肖柏の源氏物語 講釈を傍聴 実隆へ「万葉集」十四冊贈	
1486 (文明18)		百韻連歌 (夜は月 何船百韻 (帰れとて 山何百韻 (風に立ちし 種玉庵 張行	(撰津 白州亭 細川政元主催千句 連歌 (一 仏陀寺連歌会	近衛亭 月次和漢会 飛鳥井榮雅主催 歌会 二十首和歌を詠む	三条西亭 源氏物語講釈 石井宗友?に古今集講釈 冷泉為広「万葉集(宗祇抄)」 書写 三条西亭 源氏物語講釈	
1487 (文明19)	(長享元)	種玉庵 歌会 種玉庵 張行 葉守千句		三条西実隆に二十首和歌 の評を乞う 近衛政家亭 月次和漢会	源氏物語系図事今案 (三条西亭 実隆・肖柏) 実隆に 古今伝授と古今集 特別講義開始 伏見宮邦高親王 伊勢物語 講釈(勝仁親王傍聴も)	
1488 (長享2)	連歌宗匠に 越後下向 (三)	両吟何木百韻 (若水の 種玉庵 水無瀬三吟何人百韻 (雪ながら種玉庵 張行 種玉庵 歌会 何人百韻 (色いづれ張行 何路百韻 (あらぬ名を 張行 朝何百韻 (春草は 張行 種玉庵 歌会 種玉庵 歌会	撰州千句 (花やあらぬ (近江鈎陣所・足利義 尚主催 (北野連歌会所 (能勢頼則主催 香川亭連歌会 盛輪院法楽連歌会 足利義尚と両吟百 韻連歌	近衛亭 月次和漢会 飛鳥井榮雅主催 歌会 執筆之作法(宗祇連歌 式)成るか? 分葉 一本を書く 宗祇注「堀河院後百首 抄出」成るか?	実隆に面授 足利義尚 伊勢物語 講釈 相良為統に 連歌加 点 その子太郎長每へ分葉贈る	
1489 (長享3)	*義尚没 3.26 周防山口着 (延徳元)	種玉庵 歌会 種玉庵 歌会 種玉庵 歌会	大内家、家臣の連 歌会 (18回?) 夢想百韻 (ものおもは で	飛鳥井榮雅庭花賞歌会 近衛亭 歌会 大内家、家臣の連 歌会 (18回?) (一 北野連歌会所連歌会	古今集序開書、三ヶ事 切紙、短歌事切紙持参 連秘抄(宗般祇公へ不 審条々)成る 伊勢物語山口抄 宗祇付句(宗祇山口下 着抜句) 宗祇付句百 会席二十五禁 新式外之嫌物少々事	実隆に 古今伝授 肖柏に 源氏物語 講釈 三条西亭「詠歌大概」講釈 大内政弘「伊勢物語」講釈 江口忠郷「再編老葉」加註